第６回全学会議（2009.7.1）

カリキュラムに関する諸問題

教育担当理事　佐藤洋一

カリキュラム　⇦　愛教大の教育目的の実現のため

（学ぶものの学習活動全体⇨教育課程）教育の主人公は学生、

教職員は指導支援に責任を負う

・Student Success（学生成長を保証しなければならない）

カリキュラムの内容については、学生も知っておかなければならない

❶ 授業の構成（科目群（分野）、単位構成、学年配当、

必修・選択、・・・）

❷ 個々の授業 ⇨　大学の目的を達成するため、

どの部分を担うのかを踏まえた

教育目標と評価規準

⇨　シラバス（授業の工程表）が重要

❸ 学習支援 ⇨ 教職員の学習支援、
GPA（Grade Point Average）制度、
コンピュータ・ネットワークを利用した
教育システム、・・・・

❹ 学習環境 ⇨ 図書・文献、教室等の施設・設備

❺ 学生の自主的な活動等の充実 ⇨ 学びはカリキュラムの授業だけではない、

課題その１

学士課程教育における三つの方針（学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針，入学者受入れの方針）に関する共通理解を確立 ⇨ カリキュラムの見直し等

順次性のある体系的教育課程編成 教育課程の体系化・構造化←いかに学生が，学習成果を獲得できるかという観点に立つ

課題その２

②③授業改善、学習支援の充実

FD（Faculty Development）大学という組織において、教員（教員団）が教育改善に携わりながら、自らの教育能力を発達させていく

学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法を重視

⇦ 学生参画必要不可欠

すべての記載項目ごとに、求められていることを、学生にわかりやすく丁寧に記載する。

シラバスに記述する内容

授業科目名、　学年、　単位、　担当者名（複数担当の場合は全員を記載）

a）　教員免許に係わる事項

教員免許取得のための必修科目／選択科目の区分、免許状の科目、各科目に含めることが必要な事項

b）　授業目標

授業目標は、評価基準・方法に整合性を持たせ、学生全員に努力することを期待する主要な到達目標。どんな考え方や知識・技能を身につけ、どんなことができるようになるべきか、授業科目の特徴と対象学生の年次に応じて記載。この授業が大学のカリキュラムの中でどのような位置を占めているかに留意し、何を扱うか、その意味について論及。

　上位の授業科目群の教育目的・目標や連携すべき他の授業科目の教育目的・目標と整合性。同一授業科目については、大学の本来的営みが自律的・知的創造活動であることに鑑み、担当責任をもつ教員グループ（Faculty）で合意形成を。記載内容のうち合意を必要とする部分と不要な部分については確認が必要。

c）　授業計画（授業内容と方法を含む。）

(1)授業内容を明示し、(2)15週分の授業計画を記載する。(3)学生が授業に積極的に参加できるような「教授―学習の過程」に関し特徴的な授業方法を記載。（一方向伝達方式のみの授業とならないような授業方法の工夫）(4)「1単位45時間の学習内容」を念頭に学生の授業内外の学習を向上させるため、課題等についても記載。演習の場合、1単位と2単位のものがあり、両者が区別できるような授業内容・方法になるように留意。また(5)定期試験については15週目の何週目に実施するかという予定を明示する。また(定期)試験のうち「報告書審査」の場合，報告書の提出期限は15週内に制限する必要はないが、採点後、いずれ学生に返却できるような手立てを学生に示すことが望ましい。(6)複数担当教員の場合は，担当内容がわかるように明記。

d）　教科書・参考書

教科書および参考書については，どちらであるのか明記すること。

e）　評価基準・方法

◆内容的要素→「～について」⇔質的判断の根拠（評価規準）→「何を評価するのか」
◆能力的要素→「～ができる」⇔量的判断の根拠（評価基準）→「どの程度であるか」
どのように評価するか、成績がどのようにして決定するのかをあらかじめ明示。学生や他の教員等にも納得し合えるような評価基準の設定が望ましい。なお、試験の方法については、筆記試験、口述試験、報告書審査、作品及び実技審査のうち、いずれかを、または複数の組み合わせなのかが分るように明示する。また、複数の評価項目がある場合、総合的な評価方法が記述されていること。

ｆ）　備考
授業に際して、用具や機器の持参など特別な指示がある場合、または履修制限や特殊な要件がある場合、この欄に記述する。また、授業に関する学生へのメッセージの一つに、常勤教員はオフィスアワーの日時を記載する。

学部の教員免許の取得に係わる科目については、「一般的・包括的内容を含む」等、特定の領域にかたよらないよう記載するように留意する。

○「GPA制度の本格導入の提案」（教授会、2008.1.23）成績の全学的基準のガイドラインとして、「1単位45時間の学修内容」をクリアしたと判断できるものを指標Bとし、S,A,C,DはBを基準に到達度に応じてそれぞれを決めるものとする。なお学修内容は授業科目ごとに異なるので、具体的な評価基準は、設定する授業目標（獲得目標）等とともに、また学生の学びの状況を踏まえつつFD活動の一環として、検討していく必要がある。

○学士課程教育⇨優れた教養教育の実現、養成すべき教員像の下の教員養成、幅広い職業人の育成

○大学院課程教育⇨（教育学研究科）学校教育に必要な高度専門職業人の養成・学芸諸分野の有為な人材の育成、（教育学研究科）実践的指導力・学級・学校経営力を備えた高度専門職業人の養成

専攻（学士課程専門教育を系統的継承）基礎的素養涵養（発達教育科学等　共通科目）

多様な受講生（学士課程教育履歴、関心）